

福生市史研究 『みずくらいど』 総目録 1～17号

目次

福生の遺跡

——福生一中東側段丘上を掘る——

和田 哲

福生地域の生活と文化

——食・住・通過儀礼——

河上一雄

福生市の人口移動

——昭和58年度を町会別にみる——

川鍋幸三郎

連載 玉川上水 一

一枚の写真 多摩川の水泳教室

坂上洋之

編さん室日誌（昭和五七年四月～昭和六〇年三月）

市史編さん・編集専門委員名簿

編集後記（編集担当は久保田昌希、新井勝紘）

（A5判六七頁 昭和六〇年七月一日発行 頒価四五〇円）

みずくらいど 2 福生市史研究 一九八六早春

表紙写真 多摩川の渡し

植生からみた福生の自然

宮岡一雄

——樹林を中心にして——

みずくらいど1 福生市史研究 一九八五初夏

表紙写真 青梅鉄道を走る蒸気機関車

発刊にあたって

福生市長 田村匡雄

福生市史の目指すもの 市史編さん会長 田村半十郎

座談会「町誌から市史へ」 代表編集専門委員 北原 進

福生町誌編集委員 福生町誌編集委員

福生町誌編纂の足跡 福生市史編集委員

市民が綴る福生の歴史 木村東一郎

「親しめる市史を」 山崎茂男

「地域の生活史を」 高橋洋子

「戦中戦後の福生」 大沼秀伍

「古文書の学習」 峰岸秀雄

新聞切抜帳

市史研究調査レポート

①～③

熊川村の村明細帳類

史料紹介

『多満自慢石川酒造文書』第一巻について

商店街地図について 福生尋常高等小學校昭和四年入学生

郷土料理あれこれ① のしこみ

市民が綴る福生の歴史

「市民が喜んで読める市史に」

「市史に対する子供達の要望」

郷土料理あれこれ② サツマ団子

魅力ある『福生市史』のために

市史研究調査レポート ④～⑤

福生市内の戦国期文書について

福生の自由民権運動 — 近代史の視点 —

一枚の写真 火の見やぐら

編さん室日誌（昭和六〇年四月～十二月）

編集後記（編集担当は和田哲、河上一雄）

（A5判六一頁 昭和六一年三月一日発行 頒価四五〇円）

北原 進

多仁照廣

昭 士 会

河上一雄

藤森三治

小林正治

河上一雄

桜沢一昭

久保田昌希

新井勝紘

久保田昌希

新井勝紘

久保田昌希

新井勝紘

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

久保田昌希

母の町

重松囃子の発祥とその背景

一本の道

市史研究調査レポート ⑥～⑦

福生の帰化植物考

近世村落としての福生・熊川

一枚の写真 福生七夕祭り

連載 福生の民俗 一

福生の正月行事

編さん室日誌（昭和六一年一月～五月）

編集後記（編集担当は北原進、川鍋幸三郎）

（A5判六八頁 昭和六一年八月一日発行 頒価四五〇円）

佐久間登世子

森田保男

成田和子

宮岡一雄

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

みずくらいど3 福生市史研究 一九八六盛夏

表紙写真 田植風景

「水喰土」を自然地理学の立場から調べる

「熊川治郎左衛門」を追って

市民が綴る福生の歴史

佐久間登世子

森田保男

成田和子

宮岡一雄

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

北原 進

民権教師 霜島幸次郎を追って

——新聞記事の疑問

佐藤章夫

一本の道その後 ——小久保曹長のこと——

成田和子

市民が綴る福生の歴史

坂本丁次

福生・七夕祭り

児島亀之助

遠き日の球音への郷愁

——昭和二十年代の福生野球場小史——

連載 福生の民俗 二

ゆずりは

福生の盆行事

地域の生活文化を考える会

史料紹介

森田家文書をめぐって

新井勝紘

——森田製糸・工女・浩一日記——

一枚の写真 多摩川の砂利採掘場

編さん室日誌 (昭和六年六月〜一〇月)

編集後記 (編集担当は宮岡一雄、新井勝紘)

(A5判七二頁 昭和六年三月三一日発行 頒価四五〇円)

みずくらいいど5 福生市史研究 一九八七新涼

表紙写真 森田製糸所 (上水社) 全景

年中行事消滅の契機について

宮田 満

——東京地方のサイノカミの祭りを事例として——

市史研究調査ノート ⑥

市内の石仏を訪ねて

島田宇一

市民が綴る福生の歴史

福生市史刊行に期待する

青い目の人形 アミー・アーデル

赤羽根行雄

基地近辺余話

成田和子

玉川上水を土木技術の立場から調べる

森田七郎

一枚の写真 福生村熊川村組合役場

編さん室日誌 (昭和六年一〇月〜六二年五月)

編集後記 (編集担当は河上一雄、久保田昌希)

(A5判六七頁 昭和六年八月一〇日発行 頒価四五〇円)

みずくらいいど6 福生市史研究 一九八八立春

表紙写真 高崎治平翁と蚕業講習所

福生における屋敷神についての一考察

長徳寺所蔵の切紙資料について

——禪宗の仏事法要の意味と意義——

河上一雄

石川力山

市制施行の経緯

関 米吉

——福生町から福生市へ——

市史研究調査レポート ⑧

福生飛行場ものがたり

市民が綴る福生の歴史

立川愛雄

福生市内の商店調査の感想

市史編纂に携わって

山崎克美

一枚の写真 福生駅についた遺骨

山岸るみ

編さん室日誌（昭和六二年五月～一月）

編集後記（編集担当は和田哲、川鍋幸三郎）

（A5判五二頁 昭和六三年二月二〇日発行 頒価四五〇円）

資料紹介

田村幽夢の墓誌

北原 進

一枚の写真 討清出征

編さん室日誌（昭和六二年十一月～六三年五月）

編集後記（編集担当は宮岡一雄、北原進）

（A5判六五頁 昭和六三年八月一〇日発行 頒価四五〇円）

みずくらいど7 福生市史研究 一九八八緑陰

表紙写真 横田基地のB-29

市史研究調査ノート ⑦～⑨

立入禁止令と福生ホーム

——混血児収容施設福生ホーム覚書——

橋本孝蔵

みずくらいど8 福生市史研究 一九八九芳陽

表紙図版 熊川新坂のトロッコ

市史研究調査ノート ⑩～⑪

明治時代の福生の学校教育の歩み

——残された教育資料から——

高崎伊平

高崎勇作

松本三喜夫

市民が綴る福生の歴史

地図からみた福生の自然

——とくに地形を中心にして——

北村健治

近世玉川の漁場利用関係について

——享保七年の熊川村と拜島村の漁場争論にみる——

宮田 満

市史研究調査レポート ⑨～⑪

大悲願寺文書調査報告 (一)

平野明夫

市民が綴る福生の歴史

未熟者『若氣の日記』より

山崎茂男

コナラ林の中のエゴノキ

——その生存のしくみ——

鈴木由告

市史研究調査レポート ⑫

遠藤廣昭

福生市史資料編（中世・寺社）を読む

市史の窓 宗五郎のみたまじない札

加藤 哲

日光橋の煉瓦橋架換え関係史料

牛米 努

市史の窓 村の馬数の意味

北原 進

ふっさ画譜 1 川辺の冬景色

藤井将太郎

『川のある下町の話』川端康成

菅井憲一

文学の中の福生 2 『太陽の川』吉増剛造

菅井憲一

一枚の写真 熊川村青年会

一枚の写真 斎藤首相と高崎治平翁

編さん室日誌（昭和六三年五月〜一月）

編さん室日誌（昭和六三年一月〜平成元年五月）

編集後記（編集担当は河上一雄、新井勝紘）

編集後記（編集担当は和田哲、久保田昌希）

（A5判六頁 平成元年三月三〇日発行 頒価四五〇円）

（A5判七二頁 平成元年一月二〇日発行 頒価四五〇円）

みずくらいど9

福生市史研究 一九八九紅葉

みずくらいど10

福生市史研究 一九九〇清明

表紙写真 鍋ヶ谷戸上部落の防火演習

表紙写真 牛浜駅

福生村・川崎村越石出入一件について

関 雅子

福生市を数理地理学の立場から調べる

角田清美

市史研究調査ノート ⑫⑬

浅倉直美

市史研究調査ノート ⑭

田村光男

二五四点の北条氏照発給文書をめぐって

——『福生市史資料編』中世編所収文書の整理——

松本三喜夫

市民が綴る福生の歴史

高崎伊平

ある農村兵士の日清戦争

——町田政吉の征清『手帖』から——

杉山智子

思い出の教育誌（昭和初期）(一)

成田和子

市民が綴る福生の歴史

人口にみる終戦前後の福生

高崎伊平

『みずくらいど』との出会いと魅力

遠藤廣昭

資料紹介

角田清美

市史研究調査レポート ⑬⑭

高野山調査報告

峰岸秀雄

玉川上水を『玉川上水起元並野火留分水口之訳書』で調べる (一)

山下哲也

伊豆葎山江川文庫調査報告

渡辺忠胤

一枚の写真 福生グランド開場式

編さん室日誌（平成元年五月〜一〇月）

資料紹介

福生市史資料編（考古）を読んで

馬場憲一

編集後記（編集担当は宮岡一雄、川鍋幸三郎）

（A5判七〇頁 平成二年三月三〇日発行 頒価四五〇円）

福生市史資料編（近世1）の内容と特色

森田浩一

ふっさ画譜 2 熊川村風景

みずくらいど11 福生市史研究 一九九〇仲秋

表紙写真 牛浜橋

森田文庫をめぐる人々

——江戸最後の文人像——

安田吉人

市民が綴る福生の歴史

『市史』の刊行を心待ちして

——とそ者からの扣問——

須田三郎

牛浜ものがたり

立川愛雄

この人に聞く

戦前から戦後へ 地域文化運動とともに

話者 橋本孝蔵

聞き手 草志会

市史研究調査ノート ⑮～⑰

福生屠殺場とハム工場

文化財保護審議会のあゆみ

市民が綴る福生の歴史

川鍋幸三郎

島田宇一

思い出の教育誌〔昭和初期〕(二)

高崎伊平

資料紹介

玉川上水を『玉川上水起元並野火留分水口

角田清美

之訳書』で調べる (二)

山下哲也

文学の中の福生 3

『自然愛好者の敗戦前後』中西悟堂

菅井憲一

一枚の写真 福生野球場のプロ野球公式戦

編さん室日誌(平成元年一〇月～二年三月)

一枚の写真 空から見た大正時代の笹本製糸場

編さん室日誌(平成二年三月～三年一月)

編集後記(編集担当は和田哲、新井勝紘) (A5判五九頁 平成三年三月三〇日発行 頒価四五〇円)

編集後記(編集担当は河上一雄、北原進)

(A5判六七頁 平成二年九月三〇日発行 頒価四五〇円)

みずくらいど13

福生市史研究 一九九一晩秋

表紙 大正初期の福生駅前通り

幕末期における質屋渡世について

——特に福生村・熊川村を中心として——

落合 功

表紙写真 多摩川辺の田園と五日市線

明治後期の森田製糸工場における労働事情

小作寿郎

市史研究調査ノート ⑰～⑱

職工調査表にみる実態

文政四年熊川村「御貸附金一件控」

田淵正和

胡瓜（キユウリ）の輪切り考

保坂和子

——今に残る村の民俗——

北条氏照の発給文書をめぐって
「塚目太郎家政」をたずねて
——福島県桑折・国見町の調査から——

黒田基樹
小松寿治

この人に聞く

ある戦後史・鮎沢美代子氏聞き書き 話者 鮎沢美代子

一枚の絵図を追って
——田村勘次郎の寄進した今熊山奉灯——

峰岸秀雄

資料編を手にして

主婦のグループが成しとげた民俗調査のみご

一枚の写真 昭和三〇年の航空写真
編さん室日誌（平成三年七月〜一〇月）

編集後記（編集担当は川鍋幸三郎、河上一雄）
（A5判六二頁 平成四年三月三十一日発行 頒価四五〇円）

とな記録

中島恵子

——『福生市史資料編 民俗』を読む——

一枚の写真 戦後の福生駅前通り

みずくらいど15 福生市史研究 一九九二霜夜
表紙写真 八高線東福生駅
狩猟場を想定するために
——青梅市新町出土の石鏃等を中心として——

編さん室日誌（平成三年二月〜六月）

編集後記（編集担当は宮岡一雄、久保田昌希）

天保九年の下女奉公
——石川亀三郎日記と鈴木平九郎日記から——

（A5判六二頁 平成三年一月三〇日発行 四五〇円）

市民が綴る福生の歴史
『随想』昭和初期、僅か数年で消えた福生
本町地区の大グラウンド

伊藤博司

みずくらいど14 福生市史研究 一九九二啓蟄

表紙写真 開発が進行中の福生のたんぼ

増田淑美

玉川上水の蝶

市史を活用しての生活文化学習
河上一雄

漢字の読みかたはどのように定められたか
——「広報みづき」平成四年一月一五日高崎勇作氏の

田中章男

「田村十兵衛翁のこと」を読んで

『森田友昇著作集』について
石川酒造「雑蔵」史料館の開館

橋本孝蔵

資料紹介

福生市と青梅市に残る敗戦前後の家計簿

安田吉人

市史研究調査ノート ⑮〜⑳

資料編を手にして

牛米 努

川鍋幸三郎

『福生市史資料編』近世2・3を読んで

木藤祐子

15

15

15

15

15

15

三多摩近代政党史の見直し 新井勝紘

——「西多摩郡青年民政倶楽部趣意書・会則を通して」——

資料紹介

明治前期の地域医師群像 新井勝紘

——明治八年 第二大区の「医生履歴書上」から——

一枚の写真 青年団の道普請

編さん室日誌（平成三年一月～四年三月）

編集後記（編集担当は北原進・新井勝紘）

（A5判六九頁 平成四年二月二五日発行 頒価四五〇円）

みずくらいど16 福生市史研究 一九九四花春

表紙写真 新嘗祭御供米耕作

表打唄の周辺 保坂芳春

——「小宮領八千石の麦どころ」の歌詞をめぐる——

福生自然観察グループの歩み 伊東静一

市民が綴る福生の歴史

家計簿の中の歴史 成田和子

タイリ・デシんルイ・オヤブン 河上一雄

長沢縄文人の精神文化覚え書き 和田哲

一枚の写真 昭和20年代の消防車

編さん室日誌（平成四年三月～五年七月）

編集後記（編集担当は和田哲、宮岡一雄）

（A5判五四頁 平成六年三月一五日発行 頒価四五〇円）

みずくらいど17 福生市史研究 一九九四帰春

表紙写真 みずくらいど1～17号

福生の特徴ある近世墓

——自然石舟型墓標の形態とその変遷——

森田家三代のきもの

——明治・大正 粋のおもかげ——

福生市史の編さんを終って

原始・古代を担当して

中世を担当して ——新たな出発を認識——

やり残しの仕事が大きい

生涯学習と市史の編さん

『市史』の終りこそ始まり

ご期待にお応えできたかどうか

回顧裏談

福生市史研究『みずくらいど』総目録 1～17号

目次

表紙写真

一枚の写真

執筆者索引

福生市史公開講座

広報連載「しらべてふっさ」

一枚の写真 旧市史編さん室

1～15回
1～48回

増澤 直

保坂和子

和田 哲

久保田昌希

北原 進

河上一雄

新井勝紘

川鍋幸三郎

宮岡一雄

編さん室日誌（平成五年七月～六年三月）
編集後記（編集担当は北原進、久保田昌希）

（A5判六七頁 平成六年三月三十一日発行 頒価四五〇円）

表紙写真 1～17号

- | | | | | | |
|----|--------------|---------|-----|---------------|--------|
| 1号 | 青梅鐵道を走る蒸気機関車 | 石川彌八郎氏蔵 | 10号 | 牛浜駅 | 福生市役所蔵 |
| 2号 | 多摩川の渡し | 乙津不二男氏蔵 | 11号 | 牛浜橋 | 青梅法人会蔵 |
| 3号 | 田植風景 | 福生市役所蔵 | 12号 | 多摩川辺の田園と五日市線 | 立川愛雄氏蔵 |
| 4号 | 多摩川の筏流し | 森田豊氏提供 | 13号 | 大正初期の福生駅前通り | 福生市役所蔵 |
| 5号 | 森田製糸所（上水社）全景 | 森田豊氏提供 | 14号 | 開発が進行中の福生のたんぼ | 鳥居由幸氏蔵 |
| 6号 | 高崎治平翁と蚕業講習所 | 高崎弥太郎氏蔵 | 15号 | 八高線東福生駅 | 遠藤竹蔵氏蔵 |
| 7号 | 横田基地のB-29 | 福生市役所蔵 | 16号 | 新嘗祭御供米耕作 | 齊藤真一氏蔵 |
| 8号 | 熊川新坂のトロッコ | 齋藤キヨエ氏蔵 | 17号 | 「みずくらいど」1～17号 | |
| 9号 | 鍋ヶ谷戸上部落の防火演習 | 森田美芳氏蔵 | | | |
-
- | | | | | | |
|----|------------|--------|-----|-----------------|---------|
| 1号 | 多摩川の水泳教室 | 橋本孝蔵氏蔵 | 7号 | 討清出征 | 高崎弥太郎氏蔵 |
| 2号 | 火の見やぐら | 山崎タケ氏蔵 | 8号 | 熊川村青年会 | 森田勉氏蔵 |
| 3号 | 福生七夕祭り | 清水茂氏蔵 | 9号 | 齋藤首相と高崎治平翁 | 井上享氏蔵 |
| 4号 | 多摩川の砂利採掘場 | 田中厚氏蔵 | 10号 | 福生グラウンド開場式 | 田村貞子氏蔵 |
| 5号 | 福生村熊川村組合役場 | 川窪誠氏蔵 | 11号 | 福生野球場のプロ野球公式戦 | 坂本丁次氏蔵 |
| 6号 | 福生駅についた遺骨 | 町田政寿氏蔵 | 12号 | 空から見た大正時代の笹本製糸場 | 井梅義彰氏蔵 |

一枚の写真 1～17号

- 13号 戦後の福生駅前通り
- 14号 昭和三〇年の航空写真
- 15号 青年団の道普請

福生市役所蔵
田村清氏蔵
橋本孝蔵氏蔵

- 16号 昭和二〇年代の消防車
- 17号 旧市史編さん室

町田政寿氏蔵

執筆者索引

数字は福生市史研究「みずくらいど」の号数を示す。数字の後ろに記した文字で、「座」は座談会や聞き取り、「共」は共同執筆を示す。

また、グループとして執筆したものは、個人名を示さなかった。

あ行

- 鮎沢美代子 13座
- 赤羽根行雄 5
- 浅倉直美 9
- 新井勝紘 1座・2・4・8・15・15・17
- 石川力山 6
- 伊東静一 16
- 伊藤博司 15
- 岩下伴蔵 1座
- 牛米努 8・15
- 内田和雄 1座

か行

- 加藤哲 7
- 唐沢健一 1座
- 河上一雄 1・2・2・6・14・16・17
- 川鍋幸三郎 1座・1・11・14・17
- 北原進 1座・2・3・7・17
- 北村健治 7
- 木藤祐子 15
- 木村東一郎 1
- 久保田繁男 14

- 内田祥子 4
- 遠藤廣昭 4・8・9
- 大沼秀伍 1
- 小作寿郎 12
- 落合功 13
- 小野沢博一 1座

久保田昌希	1座・2・3・17
黒田基樹	14
児島亀之助	4
小林正治	2
小松寿治	14
さ行	
坂上洋之	1座・1
坂本丁次	4・11
佐久間登世子	3
桜岡幸治	12
桜沢一昭	2・12
佐藤章夫	4
島田宇一	5・11
昭士会	2
菅井郁子	13座
菅井憲一	8・9・11・13座
杉山智子	9
鈴木由告	7
須田三郎	12
角田清美	3・5・10・10共・11共
関雅子	9
関米吉	6

草志会	12座
た行	
高崎伊平	1座・8・10・11
高崎勇作	7
高橋洋子	1
立川愛雄	4・6・12
館盛光	1座
田中章男	14
多仁照廣	2
田淵正和	13
田村四郎	1座
田村半十郎	1
田村匡雄	1・1座
田村光男	10
な行	
中島恵子	13
長塚孝子	7共
成田和子	3・4・5・10・16
は行	
橋本孝藏	7・12座・15

馬場憲一	9
平野明夫	7共
藤井将太郎	8
藤谷重三郎	1座
藤森三治	2
保坂和子	13・17
保坂芳春	16
ま行	
増澤直	17
増田淑美	15
松本三喜夫	7・9
峰岸秀雄	1・4・7・9・14
宮岡一雄	1座・2・3・17
宮澤福次郎	1座
宮田満	5・8

福生市史編集専門委員会大綱

(昭和五九年二月一六日、
編さん委員会承認)

森田浩一	9
森田七郎	5
森田保男	3
や行	
山岸るみ	6
山崎克美	6
山下茂男	1・8・13座
山下哲也	10共・11共
安田吉人	11・15
ゆずりは	3・4
わ行	
和田哲	1・16・17
渡辺忠胤	9

一 編さんの趣旨

世界はいま、高度な技術革新と大規模な社会不安とを同時に抱えたまま、二一世紀に向かおうとしている。その激動の波の中で、福生市民は、富や権利のかたよらない、よ

り自由で平和な社会を築こうと、日夜努力を重ねている。

ここに福生市は、遠い過去から現代にいたる市の歴史的發展過程を跡づけ、先人たちが織りなした生活文化の軌跡と現状を総合的・科学的に明らかにした、市史の編さんを

図る。

それは郷土に対する市民の理解を深め、愛情と誇りを育て、文化遺産を次代に正しく伝え、かつ、実りある将来に向かって、展望をより確かなものとするであろう。

二 基本方針

(一) 客観的、科学的方法を堅持しながら、市民の立場に視座を置き、ながく市民に親しまれ、活用される市史の編さんを目指す。

(二) 世界史、日本史の全体の流れの中で、福生市の原始から現代までの歴史を総合するのみならず、各時代分野の特殊性を明らかにする。

(三) 市の内外に所在する諸資(史)料を調査し、収集・整理・保存をはかる。それらは直接に市史の編さんに使用するだけでなく、市民が活用できる道をひらき、将来に十全な形で伝えるようにする。

(四) 編さんの過程で市民の批判や協力をあおぎ、また、次代の市民の歴史教育、郷土理解、自治意識の醸成にも役立つものとする。

三 構成

市史は、通史編・資料編(考古、文献、民俗、地理、自然、その他)・概説編・調査報告(編さんだより、講演集などを含む)などとす。

(一) 通史編

原始古代から現代にいたる市の歴史的発展過程を客観的、実証的に叙述する。時代の経過に沿うと同時に特定の分野の詳細な総合研究の成果も入れる。読みやすい、具体的、平易な文章で叙述し、視覚的にも親しみもてるよう、写真・図表等を多く入れる。

(二) 資料編

各時代区分と分野に基づき、市史に関係深い資料だけでなく、記録保存の一助ともする。専門家のみならず市民の市史学習にも役立つよう、図版・注解をなるべく多く加える。

(三) 概説編

通史編・資料編の成果に立って、市民が手軽に親しめる「福生の歴史」(仮題)を作る。

(四) その他の刊行物

調査、編さん作業の進展に応じ、その成果を順次公開し、市民や外からの教示を得るために、必要に応じた次のような刊行物を発刊する。

ア 調査報告書

イ 古書類所在目録

ウ 編さんだより

エ 研究・情報交換雑誌等

オ 講座・講演記録集・研究会記録

カ その他

四 時代区分と分野

原始・古代 原始―平安

中世 鎌倉―戦国

近世 江戸

近代 維新―終戦
現代 終戦―現在

自然 民俗

福生市史公開講座 1～15回

福生市史を学ぶ市民講座

第一回 昭和六一年五月三一日 於商工会館

福生の自然史と植物が語るもの

明治大学教授 宮岡一雄

近世の西武蔵農村と福生 立正大学教授 北原進

第二回 昭和六一年一〇月二四日 於商工会館

昔の旅（伊勢参宮道中日記）

近世史研究家 滝沢博

真福寺文書と高野山 駒沢大学講師 久保田昌希

第三回 昭和六二年六月六日 於商工会館

新聞記事からみた福生の昭和史

近代調査員 内田祥子

森田製糸と福生の近代

町田市立自由民権資料館主査 新井勝紘

第四回 昭和六二年一〇月二四日 於商工会館

福生停車場から福生本町へ

環境と生物 水生昆虫研究家 田中和明

第五回 昭和六三年九月五日 中止（羽村町の遺跡見学）

第六回 平成元年三月二五日 於石川酒造（見学を兼ねる）

（る）

近世熊川村の名主と幕末からの酒造業について

石川酒造文書編纂協力者 牛米努

この回から「福生市史公開講座」と改称

第七回 平成元年一二月六日 於商協ビル内編さん室

福生村・川崎村越石出入一件について

鎌倉時代の多摩川流域

近世調査員 関 雅子
中世調査員 小松 寿治

水と福生の歴史
近世福生村の年中行事

歴史研究家 坂上洋之
近世調査員 北村澄江

第八回 平成二年三月二四日 於商協ビル内編さん室

福生のすまいの変遷を考える 民俗調査員 保坂和子
多摩の食生活 民俗調査員 佐野和子

第二一回 平成四年三月一四日 於商協ビル内編さん室

敗戦前後の人々の暮らし 青梅市立第2中学校教頭 川鍋幸三郎
近世多摩の騒擾 立正大学教授 北原 進

第九回 平成二年一二月二五日 於商協ビル内編さん室

福生市史の原始・古代編

立川女子高校教諭 和田 哲
宗門帳の分析 近世調査員 桜井昭男

第一三回 平成四年九月一二日 於商協ビル内編さん室

村方の諸経費と村民の生活 近世調査員 清水 浩
河原新田の開発 近世調査員 高崎勇作

第一〇回 平成三年三月一六日 於商協ビル内編さん室

中世福生の宗教と民衆 中世調査員 遠藤廣昭
福生市史資料編を通して福生の生活文化を学ぶ

第一四回 平成五年三月一三日 於商協ビル内編さん室

自治体史編さんと史料保存 大和市役所市史編さん担当 鈴木邦男
市民の歴史研究と郷土資料室

第一一回 平成三年九月七日 於商協ビル内編さん室

小平市中央図書館古文書担当 蛭田廣一

広報連載「しらべてふっさ」 1 ~ 48回

①国立高校が福生・熊川高校に 専門委員 新井勝紘

(平成元年1月15日 広報ふっさ No.322)

②横田基地の外人ハウス 専門委員 川鍋幸三郎

(平成元年2月15日 広報ふっさ No.323)

③ 蛇体裝飾をもつ土器
(平成元年3月15日) 広報ふっさ No.324) 専門委員 和田 哲

④ 稻荷様のご神体
(平成元年4月15日) 広報ふっさ No.325) 専門委員 河上一雄

⑤ 宝蔵院と天保大ききん
(平成元年5月15日) 広報ふっさ No.326) 専門委員 北原 進

⑥ 長者堀伝承
(平成元年6月15日) 広報ふっさ No.327) 専門委員 和田 哲

⑦ 天王祭りから八雲祭りへ
(平成元年7月15日) 広報ふっさ No.328) 現代調査員 橋本孝蔵

⑧ 北条氏照と福生I
(平成元年8月15日) 広報ふっさ No.329) 専門委員 久保田昌希

⑨ 市場と村の小商人
(平成元年9月15日) 広報ふっさ No.330) 専門委員 北原 進

⑩ 槍から弓矢へ
(平成元年10月15日) 広報ふっさ No.331) 専門委員 和田 哲

⑪ 横田基地の資料
(平成元年11月15日) 広報ふっさ No.332) 専門委員 川鍋幸三郎

⑫ 北条氏照と福生II
(平成元年12月15日) 広報ふっさ No.333) 専門委員 久保田昌希

⑬ 「町」になって半世紀
(平成2年1月15日) 広報ふっさ No.334) 専門委員 新井勝紘

⑭ 庚申さま
専門委員 河上一雄

(平成2年2月15日) 広報ふっさ No.335) 近世調査員 高崎勇作

⑮ 宿の大火
(平成2年3月15日) 広報ふっさ No.336) 中世調査員 大久保俊昭

⑯ 北条氏照と福生III
(平成2年4月15日) 広報ふっさ No.337) 近世調査員 関 雅子

⑰ 消えた佐平嶋
(平成2年5月15日) 広報ふっさ No.338) 現代調査員 柚木誠一

⑱ 西多摩衛生組合
(平成2年6月15日) 広報ふっさ No.339) 二つのお正月 民俗調査員 保坂和子

⑲ 福生山清岩院と玉応山福生院
(平成2年8月15日) 広報ふっさ No.340) 中世調査員 遠藤廣昭

⑳ 鮎沢先生の新郷土史論
(平成2年9月15日) 広報ふっさ No.341) 近代調査員 菅井憲一

㉑ 福生という名の語源
(平成2年10月15日) 広報ふっさ No.342) 中世調査員 立川愛雄

㉒ 神明丁場(現加美上水公園付近)
(平成2年11月15日) 広報ふっさ No.343) 現代調査員 高崎伊平

㉓ 塩の力
(平成2年12月15日) 広報ふっさ No.344) 民俗調査員 浅井 薫

㉔ 福生の人情にふれる
(平成3年1月15日) 広報ふっさ No.345) 民俗調査員 山崎ヨシ江

(平成3年1月15日) 広報ふっさ No.346)

②6 平山季重について 中世調査員 小松寿治

(平成3年2月15日 広報ふっさ No.347)

②7 金堀公園にある記念碑 現代調査員 田中 淳

(平成3年3月15日 広報ふっさ No.348)

②8 加美上水橋の由来 現代調査員 高崎伊平

(平成3年4月15日 広報ふっさ No.349)

②9 村の俳人 福泉舎友甫 近世調査員 多田仁一

(平成3年5月15日 広報ふっさ No.351)

③0 北条氏照と三尺の鮭 中世調査員 浅倉直美

(平成3年6月15日 広報ふっさ No.353)

③1 熊川村を領した旗本(1) 近世調査員 田淵正和

(平成3年7月15日 広報ふっさ No.355)

③2 福生防空監視哨 近代調査員 小作寿郎

(平成3年8月15日 広報ふっさ No.357)

③3 青年団倶楽部 現代調査員 田村光男

(平成3年9月15日 広報ふっさ No.359)

③4 熊川村を領した旗本(2) 近世調査員 田淵正和

(平成3年10月15日 広報ふっさ No.361)

③5 江戸時代の「おだちん」 近世調査員 落合 功

(平成3年11月15日 広報ふっさ No.363)

③6 上水堀にかけた橋 近世調査員 清水 浩

(平成3年12月15日 広報ふっさ No.365)

③7 田村十兵衛翁のこと 近世調査員 高崎勇作

(平成4年1月15日 広報ふっさ No.367)

③8 武州南一揆と福生 中世調査員 平野明夫

(平成4年2月15日 広報ふっさ No.369)

③9 『きのうのばん』 民俗調査員 保坂和子

(平成4年3月15日 広報ふっさ No.371)

④0 屋敷神を調べて 民俗調査員 横地美枝子

(平成4年4月15日 広報ふっさ No.373)

④1 江戸時代の織り物工場 近世調査員 鈴木芳行

(平成4年5月15日 広報ふっさ No.375)

④2 福生にもあった仇討の話 近世調査員 高崎勇作

(平成4年6月15日 広報ふっさ No.377)

④3 天神講ひろい話 現代調査員 高崎伊平

(平成4年7月15日 広報ふっさ No.379)

④4 多摩川と学校教育 現代調査員 高崎伊平

(平成4年8月15日 広報ふっさ No.381)

④5 巨木の主役「ケヤキ」 専門委員 宮岡一雄

(平成4年9月15日 広報ふっさ No.383)

④6 墓を中心とした長沢の縄文集落 専門委員 和田 哲

(平成4年10月15日 広報ふっさ No.385)

④7 長沢遺跡の土偶と装身具 専門委員 和田 哲

(平成4年11月15日 広報ふっさ No.387)

④8 多東郡と多西郡 専門委員 久保田昌希

(平成4年12月15日 広報ふっさ No.389)